

「わかる、できる喜び」と「学び合う喜び」を味わわせる体育科の授業

— 「さか上がりを中心とした連続技」の実践を通して —

岡本 秀 隆

1. はじめに

子どもたちは、めあてが体育学習の中で「できる。」ことによって運動する喜びを味わっている。この達成感そのものが、学習意欲を高めるエネルギーになっていると思われる。しかし、めあてを達成するための機械的な反復練習を行っての「できた喜び」は、一時的な学習意欲となるが持続的な学習意欲を高めることができないと思われる。

そこで、持続的な学習意欲を高めるには、運動のしかたや運動のできるコツなどを認識させ、「わかる喜び」を持って練習し、「できる喜び」を味わわせることが必要である。

また、個人スポーツや集団スポーツにおいても持続的な学習意欲を高めるには、一人ひとりのめあてを集団で互いに教え合って追求し、伸びを認め合うという「学び合いの喜び」を味わわせることが必要であると思われる。このことが運動の楽しさを味わわせて自ら進んで体育学習に取り組む子どもの育成につながると考えている。

そこで、さか上がりを中心とした連続技づくり（第3学年）の題材を通して自ら進んで体育学習に取り組む子どもが育成できる「めあてを追求していく場の構成のあり方」について体育科の2つの仮説（p. 169）について実践、検証することにした。2つの仮説を実践、検証するために次のような研究内容を設定した。

2. 研究内容

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">(1) めあてを追求するための「試行」「観察」「思考」「練習」という活動の場を工夫する。(2) めあてが追求しやすい。「逆さ姿勢の感覚」と「回転の感覚」をつかむ運動と段階的台付き鉄棒の活用によるさか上がりの段階的習得の場を工夫する。(3) 生活班のグループで段階的台付き鉄棒の練習方法を活用して協力してめあてを追求する場を工夫する。(4) 学習カードを活用してグループで自己評価、相互評価をする場を工夫する。 |
|---|

研究内容の①は、最初めあてを一人ひとりが経験し試してみる。（試技）→友だちの示範を観察し、自分の経験をふまえて良いところに気づく。（観察）→試技、観察をもとに運動の基本を知り、基本を定着させる（発見、定着）という過程を組織し、「わかる、できる喜び」と「学び合う喜び」を味わわそうとするものである。

研究内容の②は、さか上がりの技術を分析し「わかる、できる喜び」を味わわせるためにさか上がりの基本となる「逆さ姿勢での感覚」と「回転の感覚」をつかむ運動や「懸垂力」を高める運動と飯田式段階別台付き鉄棒による補助具を活用した個人差に応じためあてが追求できるさか上がりの段階的な習得の場を設定した。そして、小さなステップでのさか上がりを通して「わかる、できる喜び」を味わわそうとするものである。

研究内容の③は、子どもたちが生活班のグループで教え合ったり、励まし合ったりして一人ひとりのめあてを追求する喜びを味わわす場を設定した。生活班は、学級で2ヶ月ごとに編成する8つのグループである。編成は、男女混合で4～5名である。運動能力、体力面においては、まったく異質の集団である。自己の能力に応じて挑戦する補助台の高さは異うが技能的な面で共通のめあて

を設定することによって教え合う、励まし合う喜びを味わうことができると考える。

研究内容の④は、子どもたちに「わかる。できる喜び」「学び合う喜び」を味わわせ、めあてを追求する力と意欲を高めるためにグループで学習カードを活用してめあての達成状況を相互評価、自己評価でとらえさせるものである。また、自己の達成状況をとらえる中でできるようになったことを深めたり、つまづきを修正することによって新しいめあてを設定し学習意欲を高めようとするものである。

以上の研究内容をこれまでの研究をふまえながら研究を進めていくことにした。

3. 研究の実際

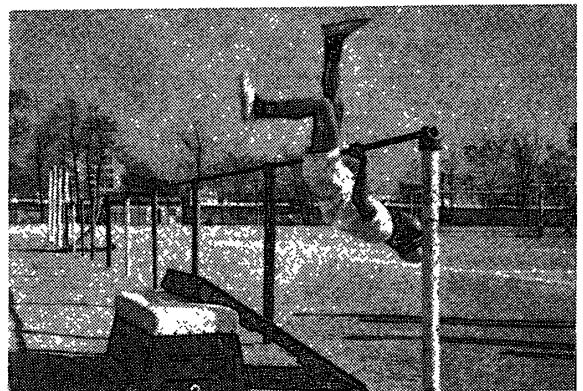
第3学年 さか上がりを中心とした連続技づくり

(1) 題材について

鉄棒を使った運動は、1本の鉄棒を使って上がったたり、回ったり、おりたりする運動である。この運動の楽しさは、自分のできるいろいろな技で上がったたり、回ったり、おりたりすることによって味わうことができる。また、新しい技を工夫して上がったたり、回ったり、おりたりすることを追求することによって「わかる、できる喜び」や「学び合う喜び」を味わうことができる。しかし、技のできばえがはっきりするために「できない」場合に学習への意欲を失う傾向がある。

3年生の鉄棒を使った運動は、2年生までの自由な鉄棒あそびからさか上がりを中心とした「上がる—おりる」という連続技ができることをねらいとしている。これは、子どもたちが2年生までの自由な鉄棒あそびの中から「さか上がり」が

写真1 飯田式段階的台付き鉄棒



できるようになりたいという強い欲求を持っていることとさか上がりができることによって今まで以上に鉄棒を使った運動に対する学習意欲を高めることができる。また、3年生の時期が神経系や体格の発達から見てさか上りの指導に適していると思われる。

「さか上がりを中心とした連続わざ」は、飯田式段階的台付き鉄棒（写真1）を利用して自己の能力に応じた台の高さでさか上りに挑戦をし、「上がる—おりる」の連続技を工夫するものである。また、各自の能力に応じてさか上がりを中心とした連続技の動きづくりを集団で互いに教え合い、励まし合って練習する態度の育成をねらいとするものである。

(2) 子どもたちの立場から見た特性

子どもたちは、1年生の頃は、デラックスジム、ジャングルジム、雲梯、登り棒などを中心とした固定施設遊びを行い、そして、2年生の頃から鉄棒を使っていろいろな技を工夫した鉄棒あそびを経験している。子どもたちの鉄棒を使った運動に対する事前調査の実態は次のとおりである。

「器械あそびの中でどんな器具を使った運動が一番好きですか」に対しては、「マットを使った運動」と答えた者が38%、「とび箱を使った運動」と答えた者が36%、「鉄棒を使った運動」と答えた者が25%であり、「できる」「できない」が明確な運動ほど好まれない傾向がある。

「鉄棒を使った運動は、好きですか」に対しては、「好き」と答えた者が88%、「きらい」と答えた者が12%であり、「大部分の子ども達が鉄棒を使った運動を好んでいる。」と思われる。

「鉄棒を使った運動でどんなところが楽しいですか」に対しては、楽しい理由として第1に「できない技ができるようになった。(58%)」第2に「いろいろな技が工夫できた。(50%)」第3に「鉄棒を使った運動が好きだから。(47%)」上げている。

また、鉄棒を使った運動が嫌いである12%の子ども達に理由を聞いてみると「鉄棒を使った運動ができない。(100%)」を上げている。

このことは、鉄棒の楽しさは、「いろいろな技が工夫できる。」ことと「できなかった技ができるようになる。」ことであると考えられる。

子どもたちの鉄棒を使った運動の技能は、表1のとおりである。

子どもたちの技能は、足かけ後転がスムーズに何回もできる者から足ぬきまわりができない者と個人差が大きい。

また、子どもたちは、これからの鉄棒を使った運動の学習で「地球まわり」「さか上がり」「腕立て後転」などの技をやってみたい。特に、さか上がりの技で片足ふみ切りと両足ふみ切りの両方ができるようになりたいという願いを持っている。

表1 鉄棒を使ってできる技 (%)

種目	男	女	
足ぬきまわり	88	94	
ふとんぼし	83	100	
こうもり	100	100	
地球まわり	77	94	
さか上がり	片足ふみ切り	72	72
	両足ふみ切り	16	31
うで立て後転	22	15	
足かけ上がり	11	26	
足かけ前転	16	10	
足かけ後転	5	15	

(3) 指導目標

- ① 鉄棒でいろいろな上がり方、回り方、おり方を工夫させる。
- ② さか上がりを中心とした連続技ができるようにさせる。
- ③ グループで運動を見合い、教え合い、励まし合って運動することができるようにさせる。
- ④ 運動する場所や用具の安全を確かめて運動することができるようにさせる。

(4) 指導計画

第1次（2時間）

鉄棒でいろいろな上がり方、回り方、おり方を工夫させる。

第2次（1時間）

段階別台付き鉄棒によるさかあがりの方法を理解させ自己のめあてを持たせる。

第3次（4時間）

さか上がりを中心とした連続技を工夫し、できるようにさせる。

第4次（1時間）

発表会をさせる。

(5) 指導の実際と考察

① めあてを追求するための「試行→観察→思考→練習→発見・定着」という学習の場の工夫

学習のめあては、一時間で追求するものと単元全体で追求するものがある。これらの二つのめあてを意欲を持って根気よく追求し「わかる。できる喜び」や「学び合う喜び」を味わうには、「こうすればできるのか」などの認識（解決の見通し）を持つことや、めあての追求状況を確認する場が必要である。そこで、「試行」「観察」「思考」「練習」の学習活動の場を構成することにした。子どもたちは、このような学習活動の場を通して「発見、定着」の喜びを味わうことができると思われる。その展開の実際を述べてみたい。

⑦ 授業の展開（第3次、第1時）

a. 本時の目標

- さか上がりで振り上げ足の上げる方向を理解させる。
- 自己の能力に応じた段階でさか上がりをして連続技ができるようにさせる。
- グループで教え合い、励まし合って運動ができるようにさせる。

b. 指導過程

学 習 過 程	指 導 上 の 留 意 点	
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="display: flex; width: 100%; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">めあての把握</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">視覚的理解</div> </div> <div style="margin: 5px 0;">↓</div> <div style="display: flex; width: 100%; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">めあての解決の見通しを持つ</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">試行</div> </div> <div style="margin: 5px 0;">↓</div> <div style="display: flex; width: 100%; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">めあての解決の活動</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">観察</div> </div> <div style="margin: 5px 0;">↓</div> <div style="display: flex; width: 100%; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">めあての解決のまとめ</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">思考</div> </div> <div style="margin: 5px 0;">↓</div> <div style="display: flex; width: 100%; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">活動のまとめ</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">練習</div> </div> <div style="margin: 5px 0;">↓</div> <div style="display: flex; width: 100%; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">のめ評価</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">発見・定着</div> </div> </div>	<ol style="list-style-type: none"> 1 器具を準備する <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 0 5px;">とび箱</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 0 5px;">ふみ切り板</div> </div> 2 準備運動をする <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 0 5px;">足ぬきまわり</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 0 5px;">ふとんぼし</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 0 5px;">得意の技</div> </div> 3 本時の共通のめあてを確認する 4 共通のめあての解決の見通しを待つ 5 段階的の台付き鉄棒でさか上がりを中心とした連続わざを練習する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px; text-align: center;">4～5人のグループで練習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px; text-align: center;">さか上がりをする</div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 0 10px;">共通のめあて</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 0 10px;">個人のめあて</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 0 5px;">振り上げ定の振りあげの方向</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 0 5px;">段階別の台の高さ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 0 5px;">ふみ切り足</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 0 5px;">両足</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 0 5px;">片足</div> </div> 6 さか上がりを中心とした連続技 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px; text-align: center;">次時のめあてをつかむ</div> 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各グループで安全に器具（とび箱とふみ切り板）を準備させるために次の点を指示する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 器具の持ち方と人数 ○ 器具の設置場所と設置方法 2. 体をほぐし回転感覚やさかさ感覚に慣れさせるために次の運動を行うことを指示する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 足ぬきまわり……あごのあげ、しめに注意して行い、足を鉄棒につけないでスムーズにする。（回転感覚） ○ ふとんぼし……体の力をぬいて手を3回たく、手首をまわして体をひき上げてつばめの姿勢になる。（さかさ感覚） ○ 自分の得意な技……今できる技を2種目選んで行う。 3. 本時の自己のめあてが達成することをねらいとして共通のめあてを確認するために次の点を留意する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 個人カードから個人のめあてを紹介する中で、解決方法として共通のめあてを提示する。 ○ 振り上げ足の振り上げる方向を考えさせる絵図を提示する。 4. 共通のめあてを解決する見通しを持たせるために次の点を指示する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ さか上がりができるための振り上げ足の方向を考えながら試す。 ○ 全員でさか上がりができる人（児童）とできない人（教師）の振り上げ足の振り上げ方向を観察する。 ○ さか上がりができる人とできない人の振り上げ足の振りあげ方向を比較して振り上げの方向を考える（思考） 5. さか上がりを中心とした連続技を意欲的に行わせるために次の点を指示する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 各グループ（4～5名）で互いに本時のめあてを確認し「見る人」「やる人」の役割を決めて協力して練習する。 ○ 振り上げ足の振りあげの方向が上になっているかを判定して教え合う。 ○ 前時に使った段階別の台の高さから始めてできたら段階をあげる。 ○ 片足ふみ切りでできた者は両足ふみ切りでさか上りを挑戦する。 ○ さか上がりができない者は、段階別の台を活用して連続技を工夫する。 6. 次時のめあてをつかませるために、グループで学習カードを活用して次の点を相互評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 個人のめあての達成状況 <ul style="list-style-type: none"> ○ よくがんばった人 ○ よかったこと ○ こまったこと

④ 学習の流れと子どもの反応

a. めあての解決の見通しを持つ

〈試行の活動〉

さか上がりができるには、「けた足をどの方向に振り上げたらよいか」という質問を投げかけて、一人ひとりに経験させて考えさせた。子どもたちは、グループでそれぞれの段階の台を使ってふり上げ足に気をつけて練習を行った。

〈観察の活動〉

試行の後に全員が集合して本時のめあてを解決する見通しを持つために友だちや教師の示範を観察した。

T. けた足は、どの方向に振り上げるとさか上がりができやすかったですか。最初にとっても上手にできているS君にやってもらいますからS君のふり上げ足がどの方向に振りあげられているか方向を注意して見て下さい。S君の後に、先生がやってみますから先生の振りあげ足とS君の振りあげ足の方向のちがいを考えてくださいね。

(Sは、2回ほどスムーズにできる示範をする。振り上げ足は、上の方にあげてさか上がりをする。
教師は、2回ほど振りあげ足を前方に振りあげてさか上がりができない示範をする。)

〈思考の活動〉

T. S君と先生の振りあげ足の上げる方向は、どうでしたか。

H. S君の振り上げ足は、上にあげていましたが先生のは、前方にあげていました。

Y. S君は、上に振り上げ足をあげているのでさか上がりができるのだと思います。

T. そうですね。Yさんが言ってくれたようにさか上がりができるようにするには、S君のように振りあげ足を上の方にあげるとよいみたいですね。

b. めあての解決の活動

T. S君のように振り上げ足を上の方にあげるようにして練習しましょう。見ている人は、振り上げ足が上の方にあがっているかどうか気をつけて見てあげてください。

子どもたちは、グループで見ている人が高さを調節しながら自己のめあての台の高さで意欲的に練習を行っていた。鉄棒の上方に手やぼうしを置いてふりあげるめやすにして評価しながら練習しているグループも見られた。

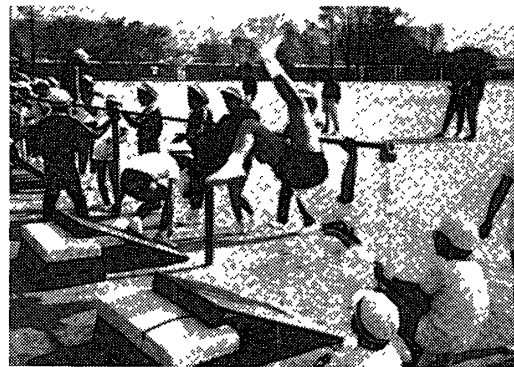


写真2 めあてを解決する活動

c. 活動のまとめ

〈発見・定着の活動〉

子どもたちは、練習や練習のまとめの中で振り上げ足を上の方にふりあげることによってさか上がりができることを認識した。また、段階別の台を活用したさか上りの練習によって「できる喜び」を味わっていた。そして、台の高さを低くして行うなど意欲的に取り組む姿が多く見られた。

② めあてが追求しやすいさか上りの基本的な運動と段階別台付き鉄棒の活用した段階的習得の場の構成

子どもたちがさか上がりの技術認識ができ、練習によってできる喜びと学び合う喜びと味わえるためにさか上がりの技術を分析して2つの学習の場を構成した。

⑦ さか上がりの基本となる「逆さ姿勢の感覚」「回転の感覚」をつかむ運動と「懸垂力」を高める運動を学習する場

a. 逆さ姿勢の感覚をつかむ運動

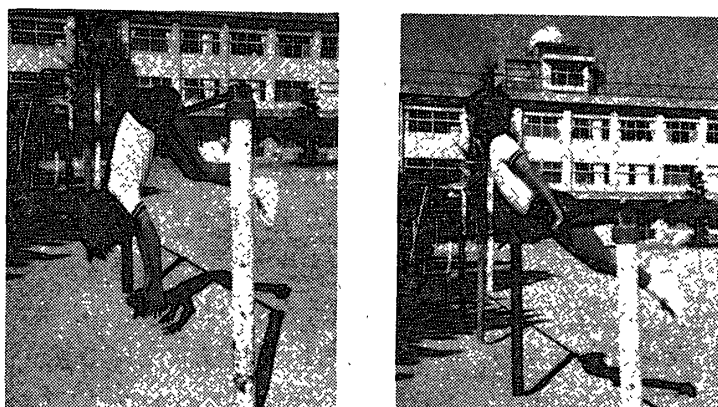


写真3 ふとんぼし → つばめ

ふとんぼしの姿勢からつばめの姿勢をとる。

特にふとんぼしでは、体の力をぬいて三回手をたたくことによって逆さ姿勢の感覚をつかませる。体に力が入っている状態では逆さ姿勢の感覚をつかんでいるとは言えない。また、ふとんぼしからつばめの姿勢に入る時に、手首のかえしと体を起こすためのあごのあげ方を体得させる。

b. 回転の感覚をつかむ運動

c. 懸垂力を高める運動

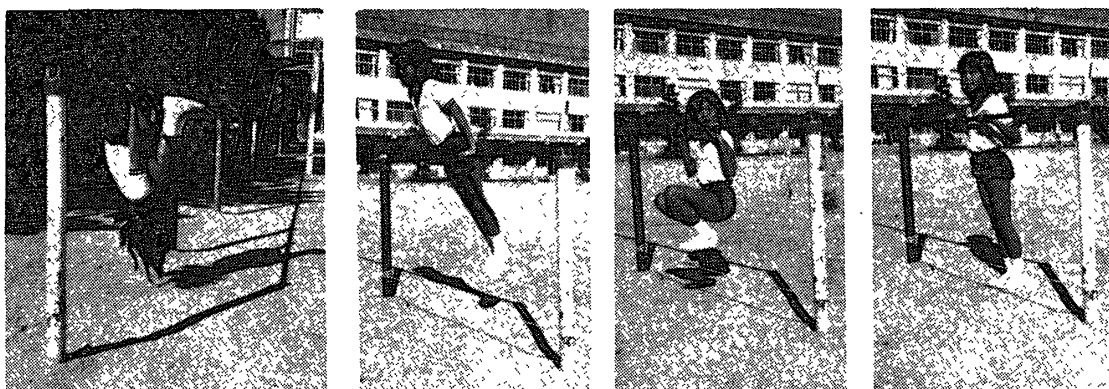


写真4 足ぬきまわり

写真5 前まわり懸垂おり

足ぬきまわりは、両足でけた力で体を回転させて回転の感覚をつかませる運動である。また、足ぬきまわりをすることによって、けり足のタイミングをあごのあげ、しめによって腰の上がり方にちがいがあることには気づかせるものである。

前まわり懸垂おりは、ロープよりも手前におりにることによって腕まげ懸垂力を高めることと手首のかえしをつかませるものである。

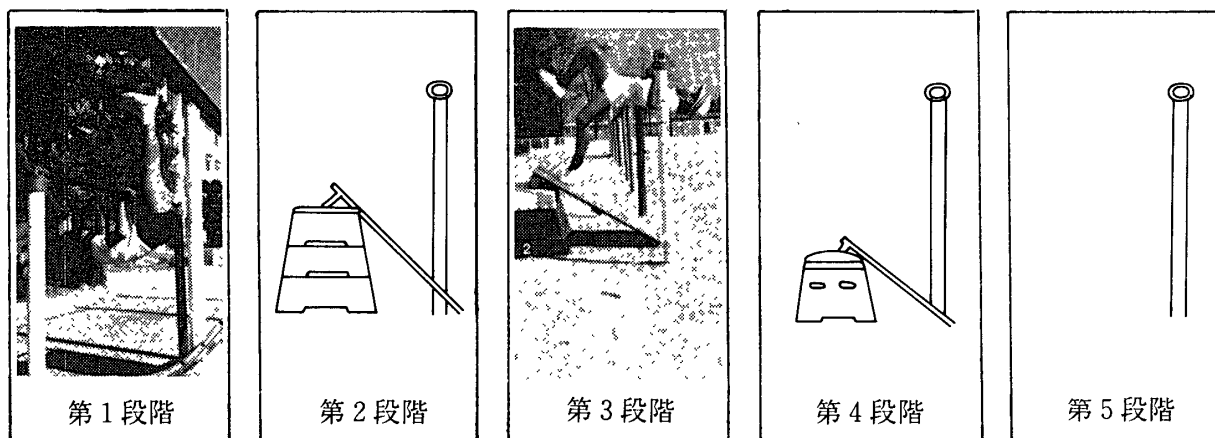
⑧ 飯田式段階別台付き鉄棒の活用

子どもたちが個人差に応じてめあて持ち、「できる喜び」を味わいやすくするために飯田式段階別台付き鉄棒の方法を参考にさせていただいて図1のような5段階のステップを作った。

練習は、次の方法で行った。

- a. ふみ切り足の片足か両足かを決定する。
- b. 1つの段階で2回続けてさか上がりができたら次の段階へ上がる。最初は、今、できる段階から始める。
- c. できない時は、前の段階にもどるか、グループで補助し合って練習する。

図1 段階別台付き鉄棒の段階



- 第1段階 さか上がり補助台を利用する。
- 第2段階 跳び箱の第を三段にする。
- 第3段階 跳び箱の台を二段にする。
- 第4段階 跳び箱の台を一段にする。
- 第5段階 何もなしで行う。
- 特 級 さか上がり・うで立て後転・前まわりおり

㊦ めあてが追求しやすい運動と段階別台付き鉄棒の活用と子ども反応

a. 「足ぬきまわり」「ふとんぼし・つばめ」「前まわり懸垂おり」の運動

これらの運動は、体をほぐし、学習への意欲化を図るために準備運動として行った。子どもたちは「足ぬきまわり」「ふとんぼし・つばめ」「前まわり懸垂おり」の運動を回数や時間、ゴムの高さなどにめあてを持って行った。

さか上がりのできない子は、「足ぬきまわり」で両足で踏み切って腰を上げられなかったり、「ふとんぼし・つばめ」で力をぬいてのふとんぼしやふとんぼしからつばめの姿勢ができなかったり、「前まわり懸垂おり」で腕まげ懸垂の姿勢ができなかった。

子どもたちは、毎時間行うことによって回数、時間、ゴムの高さのめあてを達成して、各運動のつまずきを解消していった。このことは、逆さ姿勢の感覚や回転や感覚、懸垂力が徐々に養われたと考える。また、子どもたちは、これらの運動を通して、鉄棒の握りの強さや体の回転とあごのあげ、しめの関係を知ることができた。

「前まわり懸垂おり」の運動は、「足ぬきまわり」「ふとんぼし・つばめ」の運動と比較して習得がむずかしいようであった。また、前まわり懸垂おりがあまりできない子どもは、台2段階以上でさか上がりができなかった。

腕まげ懸垂力の時間と段階別台付き鉄棒のできた段階の関係は、表2のとおりである。

表2 腕まげ懸垂力と段階別台付き鉄棒のできた段階

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
懸垂力(秒)	82	64	13	35	5	15	8	41	20	2	17	53	78	21	33	43	30	32	12	10	19	74	24	13	24	14	10	25	10	12	30
段 片足	5	特	特	特	1	5	4	特	特	1	3	特	特	特	特	特	特	特	特	特	特	特	特	特	特	特	特	2	4	4	5
階 両足			5					1	1			5	特		特	特	特	特	5	4	4	特	特	2	4	特	5				

腕まげ懸垂力が5秒以下の者は、片足ふみ切りで2段階以上ができない。しかし、腕まげ懸垂力が何秒あればさか上がりが片足ふみ切りで台を使わないでできるという必要条件

を設定することはできなかった。これは、さか上がりができるために懸垂力だけでなく協応動作（けて、足を振り上げ、腰を引いて回転する）などが条件が必要であることによるものと思われる。

b. 段階別台付き鉄棒を活用してのさか上がり

子どもたちは、自分のできそうな段階から挑戦した。そして、その段階が2回続けてきたら次の段階に挑戦した。そして、足のけり方、足の振り上げの方向など教え合ったり、できない友達の補助をしたりして練習を行った。

子どもたちは、練習での様子を次のような感想で述べている。

今、さか上りの練習をしています。とび箱とふみ台でやりやすくしているので両足ふみ切りも上手にできています。とび箱とふみ台を使ってやる時にわかったことは、強くふみ台を足でおして頭を下にやるということです。今までは、さか上がりがかた足でできればいいと思っていただけで両足でできないといけないんだなあと思いました。さか上がりは、とっても楽しいから大好きです。 M子

わたしは、はじめ、2だんかいでした。やってみると2だんかいはかんたん、3だんかいは、すこしむずかしいので、次も3だんかいでした。だけど、3だんかいはできて4だんかいはできました。だから、とても、うれしかったです。これからも、もっとやりたいな。 H子

M子は、段階別台付き鉄棒を活用してのさか上りの練習で、「ふみ切り方」と「足を振り上げる時の頭の動かし方」を理解した。また、さか上りのふみ切りの方法には、「片足ふみ切り」と「両足ふみ切り」があることを理解したことに喜びを持っていることがうかがえる。

H子は、段階別台付き鉄棒によってどんどんさか上がりげきることによって「できた喜び」を十分に味わっていることがうかがえる。

また、段階別台付き鉄棒の活用してのさか上りの達成状況は、表3のとおりである。

表3 段階別台付き鉄棒のさか上がり達成状況 (%)

段階	片足ふみ切り						両足ふみ切り					
	1	2	3	4	5	特	1	2	3	4	5	特
指導前	94	81	76	63	52	34	21	21	21	21	10	0
指導後	100	94	92	89	84	57	63	63	60	57	50	28

表3のさか上りの達成状況を見ると84%の者が台を使わないで片足ふみ切りでさか上がりができるようになっている。また、50%の者が台を使わないで両足ふみ切りでさか上がりができるようになっている。これは、さか上りの基本となる運動と段階別台付き鉄棒の活用の成果だと思われる。特に、自分の能力に合った台の高さでめあてを持ち、「できる喜び」を味わうことができた。そして、めあてを高めて追求するという意欲を持ち続けることができたことは、効果的であったと思われる。

③ 生活班のグループで教え合ったり、励まし合ったりして追求する場の設定

子どもたちが生活班のグループで教え合ったり励まし合ったりしてめあてが追求できる場として、自己の能力に応じて挑戦する補助台の高さ（個人のめあて）を設定してさか上りを練習する。また、さか上りの技能的な面で共通のめあてを設定して教え合い、励まし合っ

て練習する段階的台付き鉄棒を活用する場を設定した。

a. 共通なめあてを追求する教え合いや励まし合いの活動

子どもたちは、友だちの示範を観察をして思考することによって、共通のめあてを解決する見通しを持った。次に、全員が共通のめあてを解決する方法や手順を認識して追求の練習を行った。このことは、「教え合いや励まし合い」の視点が明確になり、教え合いや励まし合いの活動を活発にすることができた。その様子を次のように感想を述べている。

私は、今日、初めてさか上がりの両足ふみ切りができました。最初、2だんかいができませんでした。すると、川上さんが教えてくれました。「ここを、おもいきってけてごらん」と言いました。私は、言うとおりにすると本当にできました。3だんかい、4だんかいができました。けれども5だんかいは、できませんでした。やっと今日できました。私は、川上さんにかんしゃしています。 H子

子どもたちは、教え合いや励まし合いによって一人ひとりが「わかる。できる喜び」を味わい、また、友だちができるようになることによって喜びを感じている。このように「かわり合う大切さ」を体験することによって「学び合う」ことの大切さを認識できたと思われる。

b. とび箱やふみ切り板を操作する練習の場

段階別台付き鉄棒を活用してのさか上がりでは、とび箱の高さとふり切り板を試技をする友だちのめあてに合わせて設定しなければならない。

特に、体育倉庫からとび箱（3だん）とふみ切り板を鉄棒の学習の場の所まで安全に運ぶには、みんなで協力して行わなければならない。また、友だちのめあてに合わせてとび箱やふみ切り板を設定するにはグループ全員の協力が必要である。

この活動は、たいへんである。しかし、この活動が円滑に行われて初めて「わかる。できる喜び」を味わうことができる。子どもたちは最初はいやがっていたが、さか上がりが出ることによって積極的に行うようになった。



写真6 協力して補助台の準備をする

④ 学習カードを活用してグループで自己評価、相互評価をする場を工夫する。

子どもたちの追求の意欲は、自分のめあての練習を評価し合うことによって高められると思われる。そこで、生活班によるグループで、教え合い励まし合いながら互いの変容を、学習カードを活用して一時間毎に評価を行わせた。

評価は、ただ単にできた、できなかったという結果だけにとどまることなく、なぜそういう結果になったかを考え、次時での自分の能力に合った新たなめあてをみつける手だてとした。

学習カードは、グループで相互評価し合うグループカード（図2）と個人で自己評価する個人カード（図3）を活用した。

子どもたちは、グループで学習カードを活用して互いに練習の成果を確かめることによって、一人ひとりが「わかった。できた。」という喜びを味わうだけでなく、友だちの伸びを喜ぶ心が高まり、互いに学び合う喜びを味わうことができた。特に、よかったこと、がんばった人を評価することは、互いのよい点を認め合い、そのことをまねをしようとする態度が見られた。

また、個人カードでは、今日の学習で「わかったことや気づいたこと」「できるようになっ

たこと」「こまったこと」と次のめあて「知りたいことやできるようになりたいこと」を自己評価して記入させた。個人カードによる自己評価は、一時間毎の練習の成果を明確にして、「わかったこと」「できるようになったこと」を認識させるだけでなく、次時のめあての設定と追求への意欲づけをすることができた。

図2 グループカード

名前	評価
1	
2	
3	
4	
5	

図3 個人カード

この日を甲乙とした達成のため
9月14日

- 今日のめあて
- 今日の得意「わかったことやできるようになったこと」
- 今日の得意「こまったことや反省したこと」
- 「こまったこと」
- 次時間めあて
- 先生からアドバイス

4. まとめ

「わかる。できる喜び」や「学び合う喜び」を味わうことのできる場の構成は、めあてを達成するための機械的な反復練習のみの場の構成と比べて、運動の技術や方法が認識でき、その認識を持って教え合い、励まし合って練習させることができた。そして、子どもたちの欲求を十分に満足させ、運動の楽しさを味わわすことができたと考えられる。

- (1) めあてを追求するための「試行」「観察」「思考」「練習」の活動の場の構成は、めあてを追求する見通しを全員が認識し、互いに教え合って練習することができた。また、認識にもとずいた反復練習は、技能の方法やコツの発見や技能の定着を図り「わかる。できる喜び」を味わわせることができた。また、めあて追求の見通しを全員が認識することによって学び合いを深めた。
- (2) めあてを追求しやすい段階的習得の場の構成は、子どもたちが自己の能力に応じためあてを持ちやすく、「できる喜び」を十分に味わうことができた。特に、「さか上がりの基本的な運動」と「飯田式段階別台付き鉄棒」は、さか上がりに必要な懸垂力や協応動作を養うことと補助台の高さによって段階的にできる喜びを味わうことができた。特に「飯田式段階別台付き鉄棒」は、一人ひとりの者が自己の能力に応じてめあてを持って練習ができ、また、共通のめあてをグループで教え合い、励まし合って追求できるという「学び合いを深める」のに効果的であった。

しかし、授業時間内でのとび箱やふみ切り板の出し入れの問題や協応動作の運動と懸垂力とさか上がりの技能達成との関係を明確にすることが課題として残された。

- (3) 生活班グループでの段階別台付き鉄棒を活用した追求の場の構成は一人ひとりのめあての追求がしやすく互いに励まし合いながら練習ができた。また、「試技する人」「観察・補助する人」の役割や共通のめあてを明確にすることによって同質グループ以上に学び合いを深めることができた。
- (4) 学習カードを活用しての自己評価、相互評価の場の構成は、練習の成果を評価することによって「わかる。できる喜び」を味わわせるだけでなく、次時の自己の能力に応じためあてを設定し追求への意欲づけを高めることができた。また、学習カードによって観察や教え合う視点を明確にすることによって、かかわり合いを深め「学び合いの喜び」を味わわせることができた。

参考文献

- さか上がりは誰でもできる 根本正雄 明治図書 1986年
- 体育授業の系譜と展望 宇土正彦 大修館書店 1986年
- 体育科授業改造入門 小林一久 明治図書 1986年